

目的 被服教育の中で、運針を通して、心身の疲労状態、作業と心理、性格との間に、関係があるのではないか、その関係を見よう、何かプラスになることがある、と考えてはじめた。

方法 毎年春1回、家政1年生、家政2年生に、運針テストを行った。昭和32年～47年まで、課した運針作業は、クレペリン精神検査にならうて、前期15分、休憩10分、後期15分とした。また、作業状況を容易にするために、あらかじめ15本の針に糸を通しておき、号令により、1分ごとに針をかえ、行をかえて15分行った。後期の糸通しは、休憩の時にした。終って、その作業量を、グラフ用紙に記入して作業曲線をひいた。

結果 1人1人の学生の曲線をと、数量的の整理をして、作業曲線を観察する時その学生の見かけの人間像と、曲線にあらわれる人間像と一致する場合もあり、また、案外一致しない結果が発見されることもある。また、性格の上から各群別に分けることもできる。得た曲線は、学生の人間理解のためのよりどころとして役立たせるものである。